

1.3 先物を用いた投資戦略

先物を用いた投資戦略の典型は前章で述べた裁定取引です。しかし、この戦略を指数先物で行うには、現物株の複数銘柄(日経 225 であれば 225 銘柄)の売買をとこなうために莫大な資金と高度な売買システムが必要であり、とても個人投資家が実行可能なものとは言えません。ここでは裁定取引以外の売買戦略をいくつかご紹介しましょう。

1.3.1 スペキュレーション

“市場が上がる、下がるという相場観によるポジション”です。単なる“売持ち”、“買持ち”という戦略ですが、先物を使うと、手持ちの資金の何倍かの勝負ができる点がミソです。

先物の売買に必要な現金は先物の約定代金ではなく証拠金でしたね。通常、証拠金は約定代金の 10~15% 程度ですから、7~10 倍の勝負が可能なのです。ねらった通りに市場が動けば大きな利益をあなたにもたらしてくれますが、反対側へ市場が動いたときはビルの屋上から飛び降りたくなる、といったスリル満点、“ハイリスク・ハイリターン”の取引です。

日経平均先物を例にとって、詳しくご説明しましょう。いま、日経平均先物がちょうど 10,000 円という値段で取引されているとして、あなたはそれを 1 枚、10,000 円で買ったものとしてください。これは“買持ち(ロングポジション)”ですから、日経平均が上昇すれば利益を生み、反対に下落すれば損失をあなたにもたらします。

日経平均先物の取引単位は 1,000 倍です。したがって、10,000 円で 1 枚という買持ちは、

$$10,000 \times 1 \times 1,000 = 10,000,000 \text{ (円)}$$

に相当する(ロング)ポジションです。すなわち、もし先物価格が 3% 上昇すれば、10,000,000 円の 3% である 300,000 円をあなたにプレゼントしてくれることとなります。このあたりは株を売買するときと何ら変わることはありません。

ところが、先物取引には“元手”がかからない、という特徴があります。第 1 回で述べたように、先物取引は単なる契約であって、売買代金の受渡しをとこなわないのですから、10,000,000 円相当の買持ちをしたところで、10,000,000 円を必要としないわけです。その代わりに、いわゆる証拠金を納めなければなりません。

いま、証拠金率が仮に 15%であるとして(証券会社によってこの率は異なる)、あなたが納める証拠金額は、

$$10,000,000 \times 15\% = 1,500,000 \text{ (円)}$$

であり、これが“元手”に相当します。

さて、あなたが日経平均先物を 10,000 円で買った直後、市場が喜ぶ良いニュースがいくつか流れ、先物は 3%上昇し 1 時間後には 10,300 円となりました。そこでは、10,300 円で先物を 1 枚売ってポジションを解消し、

$$(10,300 - 10,000) \times 1 \times 1,000 = 300,000 \text{ (円)}$$

という利益をあなたはわずか 1 時間で手にします。もちろん先に納めた証拠金 1,500,000 円ももどってくることは言うまでもありません。

結果的に、元手 1,500,000 円で 300,000 円という利益をあなたは得た、こととなります。収益率は

$$300,000 \div 1,500,000 = 20\%$$

と計算できますが、注目すべきは、これがたった 1 時間で達成できたものだという事です。

市場がわずか 3%しか変動していないのに、あなたは 20%も収益を上げることができたのです。証拠金制度がもたらすこういう効果を“レバレッジ効果”とよびます。

もちろん、このレバレッジ効果が恐怖を味合わせてくれることもあることは、もうご想像できていると思います。もし、先物価格が下落し 9,500 円になってしまったら、その損失額は、

$$(9,500 - 10,000) \times 1 \times 1,000 = -500,000 \text{ (円)}$$

であり、元手 1,500,000 円の 1/3 が吹き飛ぶこととなります。まさにハイリスク・ハイリターンというわけです。

損失が生じてもお、ポジションを持ちつづけていたいのなら、値洗い(第 3 回参照)が行われ、証拠金額を維持するために、“追加証拠金”(通称、追証：おいしょう)を翌日の正午までに納めなければなりません。納めないと恐いお兄さんが取り立てに来る、なんてことはありませんが、強制的にあなたのポジ

ションは反対売買され、大きく減った証拠金が口座に振り込まれることになり
ます。つまり、“塩漬け”は不可能なのです。

このように、上がると思えば買う、下がると思うなら売る、という単純なも
のではありませんが、レバレッジ効果によって大きな収益を狙うことが可能な戦
略です。相場観に自信のある方はぜひチャレンジしてみてください。きっと、
病みつきになることうけあいです。